

# 強権批判2記者にノーベル平和賞

## フィリピン・ロシア

ノルウェーのノーベル委員会は8日、2021年のノーベル平和賞を、いずれも強權的な政権への批判を続けてきた、フィリピンのジャーナリスト、マリア・レッサさん(58)と、ロシアの独立系リベラル新聞「ノーバヤ・ガゼータ」の編集長ドミトリー・ムラトフさん(59)に授与すると発表した。

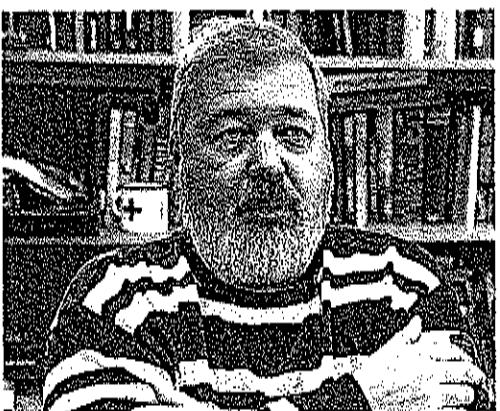
▼2面=民主主義への危機感、7面=考論、10面=社説

ノルウェー・ノーベル委員会のライアンデーション委員長は発表の会見で、「民主主義と恒久的な平和の前提である表現の自由を守るために努力してきた」と2人の裏歴をたたえた。

さらに、2人は「民主主義と報道の自由がますます不利な状況に直面している世界」で、表現の自由のために闘う「金ジャーナリストの代表だ」と述べた。受賞会の発表によると、レッサさんはフィリピンで権力乱用や暴力行使、勢いつく権威主義を告発してきた。12年に調査報道を目的としたネットメディア「ラップラー」を共同で設立し、

現在も代表を務めながらジャーナリストとして活動している。

麻薬犯罪の取り締まりのため容疑者の殺害を容認するなど、強權的な政権運営を始めたドゥテルテ大統領に対し、一貫



「事実のため闘ってきた」

マリア・レッサさんは受賞発表後、ラップラーに対し、「（ドゥテルテ氏が大統領に就任した）2016年以降、私たちは事実のために闘ってきた。ノーベル委員会は今回、『事実のない世界は真実と信頼のない世界だ』と気がついたのだと思う」と語った。（写真はいずれもAP）

「犠牲になった同僚の賞」

ドミトリー・ムラトフさんは8日、ノーボスチ通信に対し、受賞について「何も感じることはない。この賞は間違いなく、私に与えられたものではない。独立新聞の、そして誰よりも犠牲になった同僚たちの賞だ」と述べ、これまで殺害された6人の記者全員の名前をあげた。

ドミトリー・ムラトフさんは8日、ノーボスチ通信に対し、受賞について「何も感じることはない。この賞は間違いなく、私に与えられたものではない。独立新聞の、そして誰よりも犠牲になった同僚たちの賞だ」と述べ、これまで殺害された6人の記者全員の名前をあげた。

ライアンデーション氏は、同紙は「ロシアで最も独立した新聞」で、「事実に基づくジャーナズムとプロとしての誠実さ」は、他のメディアではほとんど伝えられないロシアの側面についている、と評した。

また、委員会は、同紙が恒常的に脅迫や暴力を受けてきた点を強調。ロシア南部チエチン共和国での人権侵害の実態に迫り、06年に自宅で射殺されたアントナ・ボリトコフスカヤさんを含め6人の記者が殺害された点を強調。ロシア南部チエチン

放棄していない」と評した。

同紙はソ連最後の指導者ゴルバチョフ元大統領が出資した。ゴルバチョフ氏は90年に受賞したノーベル平和賞の賞金でコンピューター20台を提供したとい

う。（オスロリ金融）